

(単位：千円)

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会同和教育活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,065	3,354				7 (諸収入)	3,347
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	711				711	

## 【目的】

- ・白山会館事業  
白山会館を拠点に学校教職員等対象の現地学習会や研修会、地区住民と関係者等との交流事業を実施することにより、人権・同和問題に対する正しい理解と認識を深める。
- ・小中学生学習会  
学習会を通して、学力の向上や仲間づくりを図る。
- ・白山会館管理運営  
人権・同和教育の活動拠点である白山会館を適切に管理運営する。
- ・市民啓発事業  
人権を考える講話会の開催や各機関及び団体等が実施する研修会へ講師を派遣することにより、同和問題をはじめとする人権問題に対して市民が正しい理解と認識を深め、差別意識の払拭を図ることで、基本的人権が真に保障される地域社会の実現を目指す。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

白山会館事業 588

## ○令和元年度目標

全ての市立小中学校(72校)が現地学習会を実施する。

## ○実施内容、これまでの経過等

年間を通して151(市内小中学校72、その他の市内学校12、市外学校56、市内団体6、市外団体5)の学校等からの要請を受け、白山会館で差別の現実を学ぶ人権・同和教育の学習会を55回開催し、2,226人が参加した。

## ○目標達成状況

市立小中学校70校が現地学習会を実施した。

小中学生学習会 794

## ○令和元年度目標

学校及び地域と連携し、対象児童及び生徒が継続して参加できるようにする。

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会同和教育活動事業		

○実施内容、これまでの経過等

年間を通して 121 回実施した。(小学生対象実施回数 66 回・延べ参加人数 406 人、中学生対象実施回数 55 回・延べ参加人数 272 人)  
新型コロナウイルス感染症対策による学校の臨時休業に伴い、令和 2 年 3 月から休止とした。

○目標達成状況

地域の理解を得ながら、学校とともに学習会への参加を呼びかけたことにより、継続して参加してもらうことができた。

白山会館管理運営 1,270

○実施内容、これまでの経過等

新型コロナウイルス感染症対策のため、施設の利用を制限したことから、利用者数は減少した。

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
利用者数(人)	3,684	3,846	3,735

市民啓発事業 702

○令和元年度目標

市内の 17 小学校区で人権を考える講話会を実施する。

○実施内容、これまでの経過等

全 50 小学校区を 3 年で一巡する実施計画どおり、17 小学校区において P T A や町内会など地域住民を対象に人権を考える講話会を開催し、565 人の参加があった。また、市内小学校 2 校からの講師派遣要請を受け、出前講座を開催し、54 人の参加があった。

○目標達成状況

人権を考える講話会を計画どおり 17 小学校区 (≒50 校/3 年計画) で開催した。

**【事業の成果】**

現地学習会や人権を考える講話会の参加者からは、「一人の人間として、自分の心の中にある差別意識や差別心と向き合うことが大切だと反省した」「もっと多くの保護者や地域の皆さんから参加してもらい、人権意識を共有したい」などの感想が寄せられ、人権に関する意識を高めることができた。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・現地学習会や人権を考える講話会の開催により、同和問題についての正しい理解と認識が深まっているものの、未だに差別がなくなる現状があることから、今後も継続して学習の機会を提供していく必要がある。
- ・差別解消に向けて、人権教育及び啓発の果たす役割は極めて重要であり、今後も社会同和教育事業を継続していく必要がある。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、施設の利用者及び事業の参加者が安全に安心できるように、施設の適切な管理運営等を行う必要がある。

決算書 (P350～P351)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会同和教育活動事業		

**【執行残額について】**

○その他 711

- ・報酬、報償費、旅費ほか（会議開催実績等による）

(単位：千円)

決算書 (P350～P351)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,959	7,739		2,148		2,593 (財源収入 諸収入)	2,998
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,220			131	1,089	

## 【目的】

- ・地域学校協働本部事業  
学校、家庭及び地域がそれぞれの役割と責任を自覚し、相互の連携及び協働を推進するための様々な仕組みづくりを進め、青少年の健全育成と地域の教育力の向上を図る。
- ・謙信KIDSプロジェクト  
ふるさと上越の魅力ある体験活動を通して、学ぶ意欲やふるさとを愛する心を育成する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

地域学校協働本部事業 3,233

## ○令和元年度目標

研修会や実践事例発表会、交流会等の開催により、学校と地域との調整役となる地域学校協働活動推進員の資質向上に取り組み、各地域青少年育成会議における地域と学校との連携・協働活動を促進する。

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・地域コーディネーター設置要綱を改正し、社会教育法に位置付けられた「地域学校協働活動推進員」として160人を委嘱した。
- ・地域学校協働活動推進員を市内の全中学校区に組織されている地域青少年育成会議に配置したことで、学校と地域との連携・協働のための調整役を担い、学校・家庭・地域が一体となった地域ぐるみの教育活動が行われた。
- ・地域学校協働活動推進員の資質向上のため、新任者研修会、実務研修会を開催した。
- ・各地域が1年間を通して地域の青少年と大人とが自分たちの地域のまちづくりをどう進めていくかを真剣に議論しながら、地域で活動を行う「地域青少年まちづくりワークショップ」を行った。
- ・令和元年11月30日(土)に「春日地域青少年育成会議」と「名立の子どもを守り育む会」の2地域が代表して、「地域青少年まちづくりワークショップ」の実践事例発表を行い、全育成会議の活動に取り組んだ委員や青少年等、延べ108人が参加した。また、発表後に、育成会議構成員や地域学校協働活動推進員、青少年が小グループに分かれて交流や活動の連携を模索することを目的とした意見交換を行った。

決算書 (P350～P351)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

○目標達成状況

地域学校協働活動推進員への新任者研修会や実務研修会により資質向上に取り組んだほか、地域青少年育成会議関係者や青少年が集まり開催した実践事例発表及び意見交換会により、地域青少年育成会議間の地域と学校との連携・協働活動の取組方法の情報共有を行うことができ、今後の活動をより一層進めるための環境を整えることができた。

謙信KIDSプロジェクト 2,593

○令和元年度目標

- ・募集定員総数に対する申込率：100%
- ・参加者の自己目標達成度：95%

○実施内容、これまでの経過等

小学生を対象に当市の豊富な地域資源や人材を活用した講座を実施し、学ぶ意欲と郷土を愛する心の育成を図るとともに、市内の異学年・異学校の子どもたちの仲間づくりを進めた。

<実施講座一覧>

(単位：人)

講座名	活動内容	主な活動場所	対象学年	募集定員	申込人数
うみ(2コース)	水族博物館内探検、クイズ作成	水族博物館	1～3年	40	182
ほし(2コース)	プラネタリウム学習、天文工作	清里区	1～3年	40	76
しぜん(2コース)	川の生き物観察、森林散策、工作	地球環境学校	1～3年	40	139
しょく	畑の観察、収穫、調理実習	浦川原区ほか	1～3年	20	47
ものづくり (2コース)	木、ヒモ、ワラを使った工作実習	市民プラザ	1～3年	40	90
ゆき	雪国の遊び、わら細工	浦川原区	1～3年	20	28
縄文	土器・石器作り、調理体験	中郷区	3～6年	25	34
海	地引網、浜汁作り体験	柿崎区ほか	4～6年	20	42
交通	電車乗車体験、軽便資料館見学	直江津駅ほか	4～6年	20	15
上越の城	春日山城跡、福島城跡、高田城跡探検	春日山城跡ほか	4～6年	20	28
食	上越の発酵食品の学習	市民プラザ	4～6年	20	27
星	望遠鏡の使い方、天体観測	清里区	4～6年	20	51
科学	科学実験、顕微鏡を使った観察	上越科学館	4～6年	25	98
世界の文化	世界各国の風習や食文化の学習	市民プラザ	4～6年	25	21
プログラミング	「たこ焼きロボット」を使ったプログラミングゲームの体験	教育プラザ	4～6年	20	124
発明 (3コース)	様々な素材の加工による工作体験	上越科学館	2～3年 4～6年 5～6年	72	207
全22コース	合計			467	1,209

決算書 (P 350～P 351)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

○目標達成状況

- ・募集定員総数 467 人に対する申込人数は 1,209 人であり、申込率 259% で目標を達成した。
- ・参加者アンケートによると、自己目標達成度は 96% であり、目標を達成した。



謙信KIDSプロジェクト  
「しぜん」の講座の様子



謙信KIDSプロジェクト  
「上越の城」の講座の様子

各種団体補助金 1,913

○令和元年度目標

- ・上越市小中学校PTA連絡協議会が行う取組を支援することにより、家庭・学校及び単位PTA相互の連携強化と地域の教育力の向上を図る。
- ・対象団体等の見直しを行った子ども交流活動支援事業補助金（旧名称：子どもリーダー育成事業補助金）について、十分な周知を図り、利用の促進につなげる。

○実施内容、これまでの経過等

- ・青少年の健全育成に関わる上越市小中学校PTA連絡協議会に補助金を交付し、各小中学校のPTA会員の資質向上や活動の活性化を図ることにより、青少年の健全育成を推進した。
- ・令和元年度から新たに子ども交流活動支援事業補助金として、補助対象団体に子ども会や地区子ども会連絡協議会だけではなく、地域青少年育成会議や文化活動団体を追加する等、子どもたちの異学年交流や地域交流等の促進を図り、ひいてはリーダーの育成につながる各種活動を支援した。

○目標達成状況

上越市小中学校PTA連絡協議会への補助金交付のほか、子ども会等に対し異学年交流や地域交流等の促進を図り、ひいてはリーダー育成につながる活動に対して補助金の交付を行うことで、青少年の健全育成活動を推進するとともに、次代を担う人材の育成に寄与することができた。

【事業の成果】

- ・地域学校協働活動推進員の学校と地域との連携した取組や資質向上のための研修会等の開催、各地域青少年育成会議との意見交換により、地域学校協働活動推進員の活動への意識の向上や地域青少年育成会議間の事業連携について検討を深めることができた。
- ・謙信KIDSプロジェクトに参加した子どもたちからは、「上越への興味・関心が高まった」との声が聞かれているほか、保護者アンケートでは「上越のことについて、いろいろ質問してくるようになった」「買い物では地元産の野菜を見つけていた」との感想も寄せられており、講座を通して、親子でふるさと上越を考えるきっかけにもつながっている。

決算書 (P350～P351)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	青少年教育活動事業		

- ・関係団体への補助金交付により、活動の活性化と青少年の健全育成活動が推進され、社会の教育力の向上を図ることができた。
- ・子ども交流活動支援事業補助金では、内容の見直しや補助対象団体の拡充を図ったことにより補助金の交付実績が増加した。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・地域学校協働活動推進員の果たす役割が大きいことから、引き続き、地域青少年育成会議とどのような研修内容が適切かを協議しながら、各種研修の機会を設ける。
- ・謙信KIDSプロジェクトの講座については、社会情勢や参加者のニーズを捉え、参加者が興味や関心を抱き、参加したくなる活動内容となるよう見直しを行う必要がある。
- ・子ども交流活動支援事業補助金により、子どもたちの交流活動等の促進を図ることができたが、より多くの団体から本補助金を活用いただくためにも、募集期間をより長く設定し、申請しやすい環境を整える。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、参加者が安全に安心して参加できるように、事業を行う必要がある。

#### 【執行残額について】

- 入札差金 131
  - ・印刷製本費、委託料
- その他 1,089
  - ・報償費、旅費、消耗品費ほか 821 (地域学校協働本部事業及び謙信KIDSプロジェクトの実施実績による)
  - ・負担金補助及び交付金 268 (子ども交流活動支援事業補助金の交付実績による)

(単位：千円)

決算書 (P350～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会教育指導員設置費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
8,472	8,387					8,387
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	85				85	

## 【目的】

青少年教育や社会同和教育、公民館事業などの社会教育事業に携わる活動団体や公民館主事、職員への指導や助言、学習相談、団体育成等を行い、社会教育の推進を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・人数 4人(非常勤一般職)
- ・内容

社会教育事業：青少年教育活動事業における運営方法の指導・助言、運営補助等

社会同和教育事業：人権を考える講話会等の市民啓発活動、白山会館現地学習会の運営、依頼者との連絡調整、第72回全国人権・同和教育研究大会・新潟大会の開催に向けた準備事務

## 【事業の成果】

- ・青少年教育活動事業では、社会教育指導員の企画と指導による豊かな地域資源をいかした体験活動を通して、学ぶ意欲と郷土を愛する心の育成を図るとともに、規範意識や他者を思いやる心など豊かな人間性を育むことができた。
- ・人権を考える講話会では、社会教育指導員の経験に基づいた分かりやすい説明により、「人権や同和問題についての関心が高まった」との参加者の感想が多く寄せられており、同和問題や人権問題への正しい認識や理解を深めることができた。

## 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・社会教育指導員の知識、指導力及び専門性を十分にいかして、効果的・効率的な事業展開を図る必要がある。
- ・同和問題を始めとする様々な人権に関する問題の解決に向けて、知識と経験の豊かな社会教育指導員による学習会や講話会を繰り返し継続して実施することが重要である。

## 【執行残額について】

○その他 85

- ・費用弁償、私有車借上料ほか



(単位：千円)

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会教育推進費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
6,748	6,730					6,730
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	18				18	

## 【目的】

- ・社会教育委員  
社会教育委員による調査・研究や提言などを通して、当市における社会教育を推進する。
- ・上越地区広域視聴覚教育協議会負担金  
視聴覚教育の発展と普及を目指した活動を行っている上越地区広域視聴覚教育協議会の運営を支援する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

社会教育委員 772

## ○実施内容、これまでの経過等

社会教育委員・公民館運営審議会委員会議や総合事務所職員・公民館主事との合同会議を開催したほか、委員による社会教育事業の事業評価を行った。また、委員の資質向上を図るため、社会教育に関する研修会や研究大会に参加した。

上越地区広域視聴覚教育協議会負担金 5,958

## ○実施内容、これまでの経過等

視聴覚教育を推進するため、上越地区3市の広域視聴覚教育協議会の一員として運営を司り、保育園及び小中学校、登録団体等に教材や機材の貸出しを行うとともに、プロジェクター・タブレットなどの各種講習会や映写会、大型ポスターの作成支援等を行った。

## 【事業の成果】

- ・社会教育委員・公民館運営審議会委員からの事業評価により、各事業の課題を把握することができた。
- ・所有している視聴覚教材や機材の貸出しを行うことにより、視聴覚教育の推進に寄与することができた。

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	社会教育推進費		

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・社会教育事業の事業評価の意見から見えてきた検討課題や成年年齢の引下げに伴う成人式についての意見交換などを行った結果を、今後の事業運営にいかしていく必要がある。
- ・広域視聴覚教育協議会について、これまでの運営方法や構成市の費用負担の見直しなどの検討を進める必要がある。

**【執行残額について】**

○その他 18

- ・有料道路使用料、需用費ほか

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習推進事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,775	2,691					2,691
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	84				84	

## 【目的】

## ・学習情報提供事業等

学習機会や指導者等の情報を提供することにより、市民の自主的、自発的な学習活動を支援し、生涯にわたる学習活動の充実を図る。

## ・上越市民芸能祭

市民に芸能学習活動の成果を発表する場や鑑賞の機会を提供し、芸術や文化活動の振興を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

学習情報提供事業等 2,505

## ○令和元年度目標

- ・様々な分野で活動している団体や指導者の情報を収集し、市民に提供することで、市民の自主性、自発的な学習活動を支援する。
- ・団体・サークル、学習指導者登録数：500件

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・市内の生涯学習活動に取り組む団体・サークルや学習指導者の情報を集約して市ホームページに掲載するとともに、公民館等へのチラシの配置や広報上越を活用し、未登録の団体やサークル及び学習指導者に新規登録を呼びかけた。
- ・各部署で実施している出前講座の情報を集約して市ホームページに掲載し、市民に紹介しており、令和元年度は1,094回講座を実施した。

## ○目標達成状況

登録件数は457件(団体・サークル：281件、学習指導者：176件)で、目標を達成することはできなかったが、学習情報を提供することにより、多様な学習活動の支援を行うことができた。

上越市民芸能祭 186

## ○令和元年度目標

市民芸能祭の開催を通じて多様な芸能に触れる機会を提供するとともに、参加団体の増加を目指す。

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習推進事業		

○実施内容、これまでの経過等

上越市民芸能祭協議会との共催により、部門別に6回の「つどい」を開催した。民謡・民舞のつどいには、姉妹都市である長野県上田市の上田民謡連合会から2団体を招へいするとともに、当市からも上田市の「上田民謡まつり」に参加した。

部門	開催日	参加団体数	入場者数(人)
洋舞	5月25日(土)	7	1,300
民謡・民舞	6月30日(日)	35	1,100
合唱	7月7日(日)	38	950
古典芸能	11月4日(月・振休)	14	250
ハワイアン・フラ	11月24日(日)	22	900
よさこい		7	500
合計		123	5,000



上越市民芸能祭 洋舞のつどいの様子



上田民謡まつりの様子

○目標達成状況

参加団体数は123団体で、平成30年度に比べ5団体減少し目標を達成できなかった。

【事業の成果】

- ・学習情報を提供することで、多様な学習活動の支援を行うことができた。
- ・市民芸能祭は、加盟団体で構成する上越市民芸能祭協議会が主体となって企画及び運営を行っており、市民参画の下、日頃の活動成果の発表や芸能を身近なものとして鑑賞できる機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・学習情報の登録件数は、高齢化に伴い団体等の活動休止などにより減少傾向にあるが、引き続き、各種事業の講師や公民館を利用する団体等に登録を呼びかける。
- ・市民芸能祭の参加団体数や入場者数について、一部では増加した部門があるものの、参画する市民の高齢化や趣味の多様化などにより、全体的には減少傾向となっている。引き続き、協議会と連携して参加団体数の増加に取り組むとともに、入場者数の増加や鑑賞を契機とした生涯学習活動への参加を促進する。また、市民芸能祭の開催に当たっては、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、参加者が安全に安心して参加できるように、事業を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他 84

- ・旅費、郵便料、私有車借上料ほか

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
4,451	3,983				689 (手数料)	3,294
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	468	7		26	435	

## 【目的】

- ・新潟県美術展覧会上越展事業  
市における美術・芸術文化の振興を図るため、新潟県美術展覧会上越展を開催する。
- ・上越市美術展覧会  
市民に美術・芸術活動の成果を発表する場や鑑賞の機会を提供し、美術・芸術文化の振興を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

新潟県美術展覧会上越展事業 634

## ○令和元年度目標

- ・歴史と伝統を持つ県内最大の公募展の巡回展を市内で開催し、市民が優れた美術・芸術文化に触れることのできる機会を提供する。
- ・入場者数：1,710人

## ○実施内容、これまでの経過等

第74回新潟県美術展覧会上越展

- ・会期 令和元年6月26日(水)～6月30日(日) 5日間
- ・会場 上越市教育プラザ体育館

## ○目標達成状況

平成30年度入場者数を目標に設定したが、最終日の大雨の影響により入場者数は1,679人で、目標は達成できなかったものの、平日(3日間)の入場者数は平成30年度を上回り、市民が優れた美術・芸術作品に触れる機会を提供することができた。

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度
入場者数(人)	1,723	1,710	1,679

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		



県展（開場式）の様子



県展（作品鑑賞会）の様子

上越市美術展覧会 3,349

○令和元年度目標

- ・中央で活躍する審査員による作品審査を行うことにより、芸術文化都市・上越として県内でも極めて高いレベルの展覧会を開催する。
- ・出品者数：290 人

○実施内容、これまでの経過等

第 49 回上越市美術展覧会

- ・会期 令和元年 10 月 6 日（日）～10 月 14 日（月・祝） 9 日間
- ・会場 高田公園オーレンプラザ…日本画、洋画・版画、彫刻・立体造形、  
工芸・グラフィックデザイン  
ミュゼ雪小町 …書道、写真
- ・作品数 351 点（うち入選数 340 点）
- ・部門別の出品者数及び作品数

部 門	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度	
	出品者数 (人)	作品数 (点)	出品者数 (人)	作品数 (点)	出品者数 (人)	作品数 (点)
日本画	9	9	13	14	14	15
洋画・版画	103	112	109	113	112	123
彫刻・立体造形	6	7	7	7	11	11
工芸・グラフィックデザイン	15	16	18	22	21	27
書道	57	61	44	47	51	53
写真	97	135	81	114	84	122
合 計	287	340	272	317	293	351

・入場者数

区 分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度
入場者数(人)	4,975	4,373	3,675

※令和元年度 会場別入場者数

(高田公園オーレンプラザ 2,534 人、ミュゼ雪小町 1,141 人)

○目標達成状況

出品者数は目標を上回ったほか作品数も平成 30 年度を上回り、市民に創作活動の成果発表の場と、芸術作品に触れる機会を提供することができた。

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	美術展覧会事業		



市展（表彰式）の様子



市展（作品鑑賞会）の様子

### 【事業の成果】

- ・新潟県美術展覧会上越展の開催周知のため、FM-J「広報」ステーションや「スポットCM」での情報発信のほか各総合事務所での入場券販売、防災行政無線による放送を継続して実施した結果、平日の入場者数は平成 30 年度を上回り、市民が優れた作品を鑑賞し、芸術文化に触れる機会を提供することができた。
- ・上越市美術展覧会の開催により、美術・芸術活動を行っている方々の成果を発表する場を提供することができた。また、出品者数及び作品数は、平成 30 年度を上回り、市民の美術・芸術活動の振興が図られた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新潟県美術展覧会上越展では、広報活動により、前売り券での入場者数は増加したが、大学生以下の入場者数が減少したことから、若い世代への周知方法を検討する必要がある。
- ・上越市美術展覧会の入場者数は、会期後半の土日祝日に台風が接近した影響から減少したが、出品者数及び作品数は増加していることから、引き続き周知に努めていく。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、参加者が安全に安心して参加できるように、事業を行う必要がある。

### 【執行残額について】

- 事業費節減 7
  - ・使用料及び賃借料 (会議の会場を見直したため)
- 入札差金 26
  - ・印刷製本費
- その他 435
  - ・賞賜金 117 (市展の入賞数が見込みを下回ったため)
  - ・報酬、旅費 245 (市展及び県展の展示・撤収作業等実績時間が見込みを下回ったため)
  - ・消耗品費、郵便料ほか 73

(単位：千円)

決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
16,979	16,381				1,941 (使用料、財産収入、 諸収入)	14,440
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	598			131	467	

## 【目的】

- ・天体観測及び天文に関する資料の展示等を通じて環境や自然の大切さを学ぶ機会を提供する。
- ・体験学習を通じて、生涯学習の振興と青少年の健全育成に寄与する。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・平成 29 年度に更新したデジタルプラネタリウムの有効活用を図るとともに、隕石落下の伝承を始め上越地域の天文教育の拠点にふさわしい学習機会を提供する。
- ・入館者数：7,000 人

## ○実施内容、これまでの経過等

## 1 入館者数

(単位：人)

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計画	実績
入館者数	7,352	6,728	7,000	7,572
(うちプラネタリウム利用者数)	5,818	4,505	5,110	5,307

## 2 自主事業等

- (1) 令和 2 年度の櫛池隕石落下 100 周年に向けたカウントダウンイベントを始め、様々な自主事業を実施し、県指定文化財である櫛池の隕石を PRするとともに、当館及び宇宙についての魅力を広く市民に周知した。実施した自主事業は、次のとおり。



決算書 (P352～P353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

自主事業名	計画回数(回)	実施回数(回)	入館者数(人)
櫛池隕石落下 100 周年カウントダウンイベント	3	3	803
10 日間連続★(ホシ) 曜日	1	1	882
観望会(天体観測ドームを活用した夜間天体観測)	82	32	968
出前講座(館以外での天体観測会等)	10	7	1,547
ガリレオスクール(1泊2日)	1	1	21
大人のための天文教室	8	8	166
天体写真に挑戦	8	4	65
親子星空教室	4	4	49
天体写真等展示企画展	2	2	-
星空バスツアー(上越科学館との連携事業)	6	6	183
謙信 KIDS “星” “ほし” 受入れ	6	6	129

※天体写真等展示企画展は、館内の一部を使った展示のため入館者数に含めない

(2) 保育園、幼稚園向けのプラネタリウム企画のほか、小中学校等の要望に応え、理科の授業に対応したプラネタリウムプログラム(学習投影用プログラム)の投影を実施した。

- ・保育園、幼稚園 16 園、815 人
- ・小学校 24 校、748 人
- ・中学校 5 校、500 人
- ・高校・大学 2 校、126 人

(3) 子ども会、公民館事業及び各種団体の研修など、31 団体 442 人の団体利用があった。

### 3 施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	1,485	1,660	1,600	1,687
	その他	207	243	228	254
	合計	1,692	1,903	1,828	1,941
②支出	施設維持管理費	14,792	15,325	16,979	16,381
	うち委託料	1,517	1,916	2,324	2,053
	その他	-	-	-	-
	合計	14,792	15,325	16,979	16,381
③公費投入額(②-①)	13,100	13,422	15,151	14,440	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)	1,782	1,995	2,164	1,907	

### 4 主な工事の内容

- ・空調設備設置工事 1,253
- 2階展示エリアの快適性向上のため、新たに空調設備を設置

決算書 (P 352～P 353)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越清里星のふるさと館管理運営費		

○目標達成状況

- ・デジタルプラネタリウムを活用し、隕石落下の歴史的事実を伝承する番組を自主製作したほか、小中学校の学習投影用のプラネタリウムプログラムも製作し、多様なニーズを捉えて学習機会を提供できたことから、プラネタリウム利用者数が大きく増加した。
- ・入館者数は7,572人であり、平成30年度に比べ844人の増となり、目標の7,000人に達した。

【事業の成果】

- ・自主事業の際の受講者アンケートでは、90.3%の方から「満足した」との回答を得ることができた（「やや満足」を含めると97.4%）。
- ・プラネタリウム自主製作番組の初公開や自主事業を実施することで、隕石落下の伝承を始め上越地域の天文教育の拠点にふさわしい学習機会を提供することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・デジタルプラネタリウムの活用によって、自主製作番組や中学校教員も参加した学習投影用のプラネタリウムプログラムを作成することができたが、更にシステム操作及び解説研修を実施し、技術向上に努める必要がある。
- ・小中学校の学習投影用のプラネタリウムについても、より一層広報活動を実施し、学習を目的とした利用促進に努める。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

- 入札差金 131
  - ・施設管理委託料及び複写機借上料ほか
- その他 467
  - ・報償金及び費用弁償 177（夜間観望会開催回数の減）
  - ・修繕料、郵便料ほか 104
  - ・委託料 186（屋根雪除雪業務）

(単位：千円)

決算書 (P352～P355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
101,082	98,323	7,198		2,100	8,414 (使用料、財産収入、 諸収入)	80,611
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	2,759				2,759	

## 【目的】

多様な生涯学習活動の場を提供することにより、市民の文化・スポーツ・レクリエーション活動の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

## - 1 利用者数等

施設名	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
希望館	3,026	68,746	2,828	63,722	2,758	65,000	64,340
B & G 海洋センター	1,499	31,592	1,407	32,311	1,406	31,000	29,219
艇庫	20	335	24	411	16	200	187
くびき球場	201	7,893	183	6,709	174	7,000	5,153
テニスコート	47	225	36	103	38	200	185
ふれあいグラウンド	480	23,928	542	25,274	331	25,000	16,682
中央広場	21	10,670	27	12,617	22	13,000	12,603
海洋公園	-	-	-	-	-	-	-
駐車場等屋外 共有スペース	31	3,020	46	5,030	27	5,000	3,797
いきいきコート	445	7,169	433	6,568	353	6,500	5,002
ゲートボールコート	4	76	5	91	9	100	196
合計	5,774	153,654	5,531	152,836	5,134	153,000	137,364

※海洋公園は、利用承認を得る必要がない施設のため、利用件数及び利用者数に含めない。

決算書 (P 352～P 355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	ユートピアくびき管理運営費		

## 2 施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		
			予 算	実 績	
①収入	使用料収入	9,074	9,031	8,914	8,001
	その他	436	397	9,807	9,711
	合計	9,510	9,428	18,721	17,712
②支出	施設維持管理費	86,425	83,615	101,082	98,323
	うち委託料	11,421	11,338	26,699	26,698
	その他	-	-	-	-
	合計	86,425	83,615	101,082	98,323
③公費投入額 (②-①)	76,915	74,187	82,361	80,611	
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位:円)	501	485	538	587	

## 3 主な修繕・工事の内容

- ・希望館：空調照明設備改修委託 14,879、玄関階段手摺設置工事 162、音楽室空調修繕 146
- ・B & G 海洋センター：幼児用プール修繕 1,287、プール薬液注入装置修繕 221
- ・くびき球場：照明ランプ交換修繕 605、ホームランポール修繕 188
- ・ふれあいグラウンド：照明ランプ交換修繕 332、人工芝修繕 227

### 【事業の成果】

プール修繕のための休館や新型コロナウイルス感染症対策による活動自粛などの影響により利用者数が減少したが、市民の多様なニーズにあわせ、文化・スポーツ・レクリエーション活動の場を提供することができた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

### 【執行残額について】

- その他 2,759
- ・報酬、費用弁償等 1,771 (非常勤一般職の勤務実績による)
  - ・消耗品費、燃料費、営繕修繕費、原材料費ほか 988

(単位：千円)

決算書 (P354～P355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
16,582	15,099				583 (使用料、財産収入、 諸収入)	14,516
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	1,483			139	1,344	

## 【目的】

市民の教養と文化の向上及び生涯学習の振興を図り、魅力ある地域社会の形成に資するため、施設の維持管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

## 1 利用者数等

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計画	実績
利用件数(件)	455	414	500	424
利用者数(人)	18,806	13,364	12,000	12,849

## 2 施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			予算	実績
①収入	使用料収入	972	684	430
	その他	213	187	153
	合計	1,185	871	583
②支出	施設維持管理費	17,781	16,122	15,099
	うち委託料	6,845	6,683	6,483
	その他	-	-	-
	合計	17,781	16,122	15,099
③公費投入額(②-①)	16,596	15,279	15,711	14,516
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	882	1,143	1,309	1,130

## 3 主な修繕の内容

- ・白蟻被害修繕 407
- ・防火設備点検不備改修 51
- ・誘導灯ランプ交換 49

決算書 (P 354～P 355)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	はーとぴあ中郷管理運営費		

**【事業の成果】**

- ・公民館事業など市の各種事業の会場として利用したほか、市民による自主的な活動、レクリエーション活動の場として、生涯学習や生涯スポーツ、イベント、集会等に利用された。
- ・地域住民のほか、隣接する地域の方々の利用もあり、交流の場として活用された。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・新型コロナウイルス感染症対策による利用制限や活動自粛により利用件数が目標を下回った。
- ・利用者数の向上を図るため、関連団体や関係者への施設紹介を行っていく。
- ・地域住民から積極的に利用してもらうため、広報紙を活用した事業PRを継続する。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

**【執行残額について】**

- 入札差金 139
  - ・施設管理委託料 (清掃業務、舞台装置点検ほか)
- その他 1,344
  - ・光熱水費 558
  - ・施設管理委託料 695 (受付事務、周辺維持管理、除雪作業)
  - ・使用料及び賃借料 60
  - ・消耗品費、修繕料ほか 31

(単位：千円)

決算書 (P354～P357)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
22,922	22,295				1,070 (使用料、譜収入)	21,225
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	627			19	608	

## 【目的】

地域における生涯学習活動及び生涯スポーツ活動を促進するため、生涯学習センターの管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

コミュニティ圏域の活動の拠点として、また、市民の生涯学習活動の場として、維持管理を行い、年間15,022人が利用した。

## ○施設の管理実績

## ・地域生涯学習センター利用者数等

区名	施設名	平成29年度		平成30年度		令和元年度		
		利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人) 計画 実績	
安塚区	中川	72	1,065	74	1,076	66	1,076	881
	伏野	38	716	38	920	34	920	665
	菱里	10	1,112	16	1,060	12	1,060	803
	船倉	28	427	17	340	7	340	135
	須川	44	251	40	266	47	266	248
	小計	192	3,571	185	3,662	166	3,662	2,732
大島区	大島	60	1,275	67	1,148	70	1,300	1,182
吉川区	吉川旭	67	1,658	88	1,318	78	2,000	1,140
	源	4	427	53	1,788	36	1,100	1,417
	小計	71	2,085	141	3,106	114	3,100	2,557
中郷区	片貝	30	1,701	44	1,912	46	1,700	1,467
清里区	櫛池	32	1,294	36	1,045	39	1,189	1,194
名立区	下名立	43	380	3	77	4	77	83
	不動	328	5,612	272	2,498	306	2,498	3,001
	小計	371	5,992	275	2,575	310	2,575	3,084
合計		756	15,918	7	13,448	745	13,526	12,216

決算書 (P354～P357)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

・片貝縄文資料館利用者数等

区分	平成29年度		平成30年度		令和元年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数(人)	
						計画	実績
部屋利用	62	1,861	68	2,315	63	2,000	1,883
資料館		1,203		1,385		1,000	923
合計		3,064		3,700		3,000	2,806

・施設管理における市の収支状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	451	464	446	379
	その他	786	761	649	691
	合計	1,237	1,225	1,095	1,070
②支出	施設維持管理費	21,440	26,761	22,922	22,295
	うち委託料	4,890	5,252	4,978	4,923
	その他	-	-	-	-
	合計	21,440	26,761	22,922	22,295
③公費投入額(②-①)	20,203	25,536	21,827	21,225	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位:円)	1,064	1,489	1,321	1,413	

※片貝縄文資料館の利用者数等を算定に含む。

・各区施設の主な整備等内容

区名	施設整備等の内容(業務委託・修繕・工事)
安塚区	○機械警備(中川78)、貯水槽清掃(菱里24)、浄化槽維持管理(中川41、伏野135、菱里129、船倉52)、消防設備点検(中川38、伏野54、菱里98、船倉36、須川26)、施設管理(中川180、伏野144、船倉142、須川172) ○防火戸(中川64)、防排煙設備(中川39) ○外壁縦樋工事(伏野1,279)
大島区	○浄化槽清掃(158)、消防設備点検(19)、清掃(30) ○誘導灯撤去(12)、破風板(20)、アルミサッシガラス交換(11)
吉川区	○消防設備点検(30)、草刈等(旭105)、浄化槽管理(源143) ○フラッシュドア入替え(旭378)、漏水(源246)、小便器(旭11)、浄化槽送風機(源21)
中郷区	○機械警備(90)、施設維持管理(316)、消防設備点検(425)、地下タンク定期点検(50)、熱風炉保守点検(275)、自家用電気工作物保安管理(124)、椅子式階段昇降機保安点検(40)、防火設備点検(145) ○除雪機(18)、消防設備受信機バッテリー交換(122)、入口ドアフロアヒンジ(204)
清里区	○貯水槽清掃等(43)、水道滅菌保守(87)、環境整備(160)、消防用設備等維持点検(103) ○図書室床(740)、体育館玄関(380)、除雪機(36)
名立区	○施設維持管理(不動254)、消防用設備保守点検(下名立49、不動135)、草刈等(下名立38)、倒木撤去処分(下名立152) ○ガラスブロック入替(不動145)、灯油タンク冬囲い(不動65)、誘導灯非常用バッテリー交換(不動42)、自動火災報知設備非常用バッテリー交換(不動30)



決算書 (P 354～P 357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	生涯学習センター管理運営費		

#### 【事業の成果】

生涯学習及び生涯スポーツ活動のほか、コミュニティ圏域の集会や会議、地域行事に利用され、心豊かに教養を高め、健康の増進を図るなど、身近な地域での生活文化の振興に寄与することができた。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・各生涯学習センターについては、閉校した小学校を活用しており、建物の耐用年数の到来や老朽化の進行などを踏まえながら、施設管理運営の改善に努める必要がある。
- ・施設管理運営の改善に当たっては、生涯学習及び生涯スポーツ活動のほか、各地域での実際の使われ方（機能）に着目し、地域に根ざした活動の場所がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧に重ねていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

#### 【執行残額について】

- 入札差金 19
  - ・委託料
- その他 608
  - ・報酬、共済費及び旅費 129
  - ・使用料及び賃借料 113
  - ・委託料ほか 366

(単位：千円)

決算書 (P356～P357)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
2,001	1,998					1,998
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3			3		

## 【目的】

青少年の健全育成を推進するため、大潟野外活動施設の適切な管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

&lt;指定管理の状況&gt;

制度導入年度	平成18年度
指定管理者名	大潟観光協会
指定期間	平成31年4月1日から令和6年3月31日まで

○施設の管理実績

・利用者数

(単位：人)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
利用者数	11,539	12,899	8,440	13,893

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	-	-	-	-	
②支出	修繕料	-	151	148	
	役務費	9	-	-	
	委託料	2,003	2,003	1,850	1,850
	合計	2,012	2,012	2,001	1,998
③公費投入額(②-①)	2,012	2,012	2,001	1,998	
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)	174	156	237	144	

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	野外活動施設管理運営費		

(参考) 指定管理料の増減額

前指定期間の指定管理料平均額 (決算ベース)	①	2,003
令和元年度の指定管理料 (委託料)	②	1,850
指定管理料の増減額	①-②	153

※管理人の勤務時間及び委託料を精査したため、指定管理料が 153 千円の減となった。

○指定管理者の収支状況等

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		
			計 画	実 績	
①収入	利用料金収入	110	97	79	91
	管理運営委託料	2,003	2,003	1,850	1,850
	その他	-	-	-	-
②支出	2,037	2,044	1,929	1,974	
差引 (①-②)	76	56	0	△33	

【事業の成果】

市内小中学校等がデイキャンプや野外学習を行う場として、また市民が気軽に活用できる場としてキャンプ場やトリム遊具などを適切に維持管理し、青少年の健全育成や市民の余暇活動の充実に寄与することができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・誰でも気軽に利用できる状態を維持するため、トリム遊具の日常的な点検及び環境整備を行う中で安全な野外活動の場の確保に努める。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

【執行残額について】

○入札差金 3

- ・修繕料 (ターザンロープ撤去修繕)

(単位：千円)

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
934	804				260 (使用料 諸収入)	544
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	130			25	105	

## 【目的】

集会、学習、レクリエーション活動などの多目的な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与するため、施設の管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○実施内容、これまでの経過等

## 1 利用者数等

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
			計画	実績
利用件数(件)	368	369	400	355
利用者数(人)	3,973	4,011	4,100	3,967

## 2 施設管理における市の収支状況

区分	平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	使用料収入	273	263	265	250
	その他	10	10	9	10
	合計	283	273	274	260
②支出	施設維持管理費	574	906	934	804
	うち委託料	229	143	146	145
	その他	-	-	-	-
	合計	574	906	934	804
③公費投入額 (②-①)	291	633	660	544	
④利用者 1 人当たりの公費投入額 (単位：円)	73	158	161	137	

## 3 主な修繕・工事の内容

- ・ 玄関ポーチ屋根葺き替え修繕 254
- ・ 大会議室及び小会議室畳表替え修繕 106

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	七ヶ地区コミュニティセンター管理運営費		

**【事業の成果】**

施設の適切な管理を行い、七ヶ地区の6町内会（法音寺、金谷、東谷内、雁海、下中山、小萱）の地域に根差した多様な活動の場を提供し、地域住民の生活文化の向上に寄与した。

**【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】**

- ・地域住民及び市民が安全に安心して当該施設を利用できるよう、利用実態と施設の機能に応じて、引き続き計画的な修繕等を行いながら、維持管理を図っていく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

**【執行残額について】**

○入札差金	25
・修繕料	
○その他	105
・修繕料	52
・光熱水費	27
・燃料費	17
・報償費ほか	9

(単位：千円)

決算書 (P356～P357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
73,308	72,767			1,900	76 (財産収入)	70,791
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	541			17	524	

## 【目的】

上越地域における科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成に寄与するため、上越科学館の管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○令和元年度目標

- ・上越地域の科学の拠点施設として科学的な知識の普及や科学に親しむ習慣の形成、科学的な理解力を育むよう質の高い事業及びサービスを提供する。
- ・年間利用者：103,000人

## ○実施内容、これまでの経過等

- ・年間を通して自然観察教室やサイエンスショー、科学工作教室を開催したほか、学校などに向いて出前授業も展開した。また、青少年を対象とした発明工夫・模型工作展や科学の祭典などのイベントを実施し、指定管理者による質の高い事業、サービスを提供することができた。
- ・夏の特別展では「大虫展Ⅱ」を、冬期には「ミニ恐竜展」を開催するなど、指定管理者が有するノウハウをいかして自主的に事業に取り組んだ。

※夏の特別展：24,683人(42日間)、ミニ恐竜展：10,144人(42日間)

## &lt;指定管理の状況&gt;

制度導入年度	平成30年度
指定管理者名	新東産業株式会社
指定期間	平成30年4月1日から令和4年3月31日まで

## ○施設の管理実績

## ・利用者数

(単位：人)

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	
			計画	実績
利用者数	90,027	108,494	103,000	103,420

決算書 (P356～P357)	10款5項1目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

・指定管理者制度導入施設における市の収支状況

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			予算	実績	
①収入	21,334	76	1,976	1,976	
②支出	修繕料	1,207	416	4,639	4,621
	委託料	47,951	63,300	64,705	64,704
	使用料及び賃借料	1,298	1,794	1,802	1,795
	新型コロナウイルス減収補填金*	-	-	2,162	1,647
	その他施設維持管理費	11,276	-	-	-
合計	61,732	65,510	73,308	72,767	
③公費投入額 (②-①)	40,398	65,434	71,332	70,791	
④利用者1人当たりの公費投入額 (単位:円)	449	603	693	685	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填するもの

(参考) 経費の増減額

導入前の過去3か年の一般財源負担平均額 (決算ベース)	①	55,652
令和元年度の指定管理料 (委託料)	②	47,870
経費の増減額	②-①	△7,782

○指定管理者の収支状況等

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度		
			計画	実績	
①収入	利用料金収入	-	25,198	23,732	22,532
	管理運営委託料	-	47,000	47,870	47,870
	新型コロナウイルス減収補填金*	-	-	-	1,647
	その他	-	3,587	2,645	3,351
②支出	-	79,439	74,247	78,484	
差引 (①-②)	-	△3,654	0	△3,084	

※新型コロナウイルス感染症の影響により利用料金収入等が減少した指定管理者に対し、協定に基づいて減収分を補填するもの

○目標達成状況

新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年3月4日から31日まで施設の利用制限を実施したが、1年を通してイベントの空白期間を少なくしたことで利用者数は103,420人となり、当初計画の103,000人を上回ることができた。

決算書 (P 356～P 357)	10 款 5 項 1 目 社会教育総務費	所管課等	社会教育課
事業名	上越科学館管理運営費		

#### 【事業の成果】

- ・自主事業を幅広く周知するため、広報上越への掲載のほか、マスコミへのプレスリリースやホームページの更新、SNSでの情報発信をきめ細かに行い、積極的に利用促進を図った。
- ・隣接する市を定期的に訪問し、誘客宣伝活動を行ったほか、地域等の要望を受け、子ども会行事や学校の文化祭、地域のイベントなどに出向き、科学に親しむ習慣の形成に努めた。
- ・来館者のニーズを的確に捉えた特別展やイベントの空白期間だった6月の企画展、12月に初めて行った原画展を展開した結果、2か年連続で来館者数が10万人に達した。

#### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・教育普及活動を視点とした自然科学教育の拠点の役割を更に高めるため、きめ細かな情報発信と顧客満足度の向上を図る営業活動、近隣県の市教育委員会や旅行代理店への誘客宣伝活動を展開し、魅力的な施設運営を一層進める必要がある。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、施設の利用者及び事業の参加者が安全に安心できるように、施設の適切な管理運営等を行う必要がある。

#### 【執行残額について】

- 入札差金 17
  - ・修繕料
- その他 524
  - ・指定管理減収補填金ほか



(単位：千円)

決算書 (P356～P359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
60,479	56,765				1,430 (財産収入、諸収入)	55,335
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	3,714				3,714	

## 【目的】

「学びの輪が 人をはぐくみ 地域を支えるまち」を社会教育の目指す姿として定め、学びを通じた人づくり、地域づくりを図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

公民館事業 55,597

## ○令和元年度目標

実施内容の表に掲げる(1)学びのきっかけづくり、(2)未来を支える人づくり、(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり、(4)地域・現代課題に対応した地域づくりに該当する 192 事業(当初予算における計画事業数)の受講者総数：4,100 人

## ○実施内容、これまでの経過等

## ＜事業の実施状況＞

## ・総事業数：321 事業

うち、中央公民館事業(以下、「中央」と表記) 25 事業

地区公民館事業(以下、「地区」と表記) 296 事業

受講者延べ人数：42,716 人(中央：4,150 人、地区：38,566 人)

このうち、目標に掲げた4つの事業に該当するもの

事業数：181 事業(中央：22 事業、地区：159 事業)

受講者数：13,402 人(中央：3,497 人、地区：9,905 人)

(1)学びのきっかけづくり	目的	地域住民のニーズに応じた趣味や教養講座等から個人の学びの意欲を高めるとともに、交流の輪を広げる。
	事業分類	趣味・教養講座、体育・レクリエーション講座
	事業例	歴史講演会、絵手紙教室、ヨガ教室など 67 事業 (中央：7 事業、地区：60 事業)
	受講者延べ人数	4,690 人(中央：1,318 人、地区：3,372 人)

決算書 (P 356～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

(2)未来を支える人づくり	目的	地域資源及び地域の人材を活用した体験活動や交流等を通じて、子どもたちの豊かな心をはぐくむ。
	事業分類	青少年教育活動事業、キッズフェスタ事業
	事業例	こどもクラフト教室、自然観察教室、こうみんかんキッズフェスタなど 35 事業 (中央：1、地区：35 事業)
	受講者延べ人数	4,098 人 (中央：1、地区：4,098 人)
(3)育ち合い、支え合う家庭環境づくり	目的	子どもが健やかに育つよう家庭の教育力向上を図るとともに、子どもの居場所づくりに努める。
	事業分類	家庭教育支援講座、親子活動講座、夏休み☆子どもつどいのひろば
	事業例	家庭教育支援講座、親子料理教室、夏休み☆子どもつどいのひろばなど 34 事業 (中央：4 事業、地区：30 事業)
	受講者延べ人数	2,374 人 (中央：1,355 人、地区：1,019 人)
(4)地域・現代課題に対応した地域づくり	目的	各地域自治区における地域の課題や情報モラル等の現代課題を学習することにより、課題解決に向けた意識を高める。
	事業分類	元気の出るふるさと講座、地域・現代課題講座、公民館のつどい
	事業例	元気の出るふるさと講座、防災講座、公民館のつどいなど 45 事業 (中央：11 事業、地区：34 事業)
	受講者延べ人数	2,240 人 (中央：824 人、地区：1,416 人)
(5)行動する人への支援	目的	これから行動しようとする人や自主的に活動している団体、個人への活動支援を通じて、活動機会の提供及び活動の維持・継続を図る。
	事業分類	分館事業、ボランティア活動、団体、サークル及び地域活動への支援、生涯学習フェスティバルなど
	事業例	分館運動会、町内対抗輪投げ大会、作品展など 140 事業 (中央：3 事業、地区：137 事業)
	受講者延べ人数	29,314 人 (中央：653 人、地区：28,661 人)

- ・住んでいる地域の歴史や文化、活動団体等の取組を学び、地域の課題の解決や地域を元気にするための活動を考え、実践する「元気の出るふるさと講座」(5 回/年、3 年連続講座)を 8 地域自治区で開催し、延べ 506 人が参加した。1、2 年目に学習した地域の魅力を収めた小冊子を作成して地域に発信したり、地域の歴史について 1 枚のマップにまとめたものを小学生に紹介するなど、各地域で特徴ある活動を実施した。
- ・中央公民館事業では、上越市・妙高市・糸魚川市の公民館関係者が一堂に会して、社会教育・公民館活動にいかせる力を身につける「公民館のつどい」の実施や、同三市の連携事業「歴史講座 ～三街道(北国街道・加賀街道・松本街道)をゆく～」の開催などを通して、上越地域の他市との交流を促進することができた。また、勤務後の市民のライフスタイルに応じた時間帯に合わせた「オーレン☆ナイト講座」や親子向けの料理教室など、子どもや勤労世代の市民を対象とした事業を実施し、幅広い世代に向けて学習機会の提供と公民館活動の周知を行うことができた。

決算書 (P 356～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館事業		

○目標達成状況

実施内容の表の(1)から(4)までの、人づくりと地域づくりに向けた事業の受講者総数は 13,402 人となり、市民が身近な学びの場に集い、教養を高め、交流の輪を広げる取組を推進できた。



たかだチャレンジキッズ (高田地区公民館)



まち巡り講座 (新道地区公民館)

公民館図書室事業 1,168

○実施内容、これまでの経過等

- ・地域の団体及び公民館利用者等の要望を踏まえた公民館図書室の利用促進を図っている。
- ・高田図書館の本の受取・返却サービスを継続して実施するとともに、公民館利用者や公民館事業参加者を対象とした図書購入希望アンケートに基づく選書や、新刊本の案内や季節に合わせたおすすめ本をお知らせするコーナーの設置等を行い、住民にとって身近な公民館において読書啓発活動の推進に努めた。

【事業の成果】

- ・市民の学びに対する意欲・関心を高め、交流を深めるきっかけを提供し、学びの輪が人をはぐくみ地域を支えるまちづくりに向けた支援ができた。
- ・オーレンプラザにおいては、ホール施設を中心に市民団体等による音楽発表を行うことで、文化活動の広がりや賑わいの創出の実現につなげるとともに、市民交流の促進を図ることができた。

【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・各地域の特性やニーズを的確に捉えた事業を展開するため、公民館運営委員を始めとした地域住民・団体と協力しながら、生涯学習の推進や人づくり、地域づくりに結び付く事業を引き続き実施する必要がある。
- ・年度末に実施予定であった事業は、新型コロナウイルス感染症対策のため中止した。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、参加者が安全に安心して参加できるように、事業を行う必要がある。

【執行残額について】

○その他 3,714

- ・報償費 1,826
- ・共済費 891
- ・旅費 574
- ・保険料、私有車借上料ほか 423

(単位：千円)

決算書 (P 358～P 359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館施設整備事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
1,923	1,923					1,923
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	0					0

【目的】

利用者が安全安心かつ快適に利用できるよう施設整備を行う。

令和元年度の取組

【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

○令和元年度目標

頸城地区公民館大坂井分館の多目的広場遊具等の撤去工事を実施する。

○実施内容、これまでの経過等

- ・大坂井分館多目的広場遊具等撤去工事 1,923  
遊具、フェンス、ポール基礎、植栽等の撤去

○目標達成状況

撤去工事を計画どおり実施した。

【執行残額について】

○その他 0

- ・工事請負費

(単位：千円)

決算書 (P358～P359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
146,288	139,057			14,300	8,482 (使用料、財産収入 諸収入)	116,275
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	7,231			2,691	4,540	

## 【目的】

地域活動の活性化を促すため、公民館施設の適切な管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

地域の社会教育活動の拠点施設として、また、市民の生涯学習活動の場として、維持管理を行い、年間約 22 万人が利用した。

## ○施設の管理実績

## ・利用者数等

区分	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計 画	実 績
高田地区公民館	466	6,682	-	-	-	-	-
新道地区公民館	585	3,821	614	4,510	582	4,300	4,374
金谷地区公民館	1,085	10,297	889	9,808	1,055	9,500	10,342
和田地区公民館	221	2,533	472	3,083	467	2,600	4,082
津有地区公民館	1,222	13,542	1,219	15,910	1,323	17,000	21,600
高土地区公民館	560	7,635	501	10,346	572	8,800	9,115
三郷地区公民館	251	3,572	253	3,691	328	4,300	4,766
諏訪地区公民館	452	6,085	383	5,674	344	5,500	5,164
有田地区公民館 (カルチャーセンター)	3,628	68,855	3,248	72,392	3,151	68,000	58,562
保倉地区公民館	89	1,561	96	2,086	111	1,900	2,533
北諏訪地区公民館	303	3,179	282	3,165	283	3,300	2,957
谷浜・桑取地区公民館	244	4,617	650	5,265	592	5,700	4,848
桑取分館	128	1,412	134	1,399	123	1,200	1,321
計	9,234	133,791	8,741	137,329	8,931	132,100	129,664
13 区分	8,121	133,318	8,257	102,836	7,457	110,000	95,894
合 計	17,355	267,109	16,998	240,165	16,388	242,100	225,558

決算書 (P358～P359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

※高田地区公民館は、「上越市市民交流施設高田城址公園オーレンプラザ」に併設のため除外  
(平成 29 年度は移転前の 9 月までの数値)

※直江津地区公民館は、「直江津学びの交流館」に併設のため除外

※春日地区公民館は、「上越市春日謙信交流館」に併設のため除外

※八千浦地区公民館は、「上越市八千浦交流施設はまぐみ」に併設のため除外

・ 13 区分の内訳

区 分	平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		
	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	利用件数 (件)	利用者数 (人)	
						計 画	実 績
浦川原区	150	2,336	229	2,061	223	2,300	2,238
大島区	275	3,913	254	3,275	185	3,000	2,462
柿崎区	2,739	31,138	2,663	30,567	2,494	33,500	26,630
大潟区	747	6,857	735	7,033	641	6,700	7,163
頸城区	827	12,708	1,151	11,960	865	12,000	10,570
吉川区	581	13,953	618	10,336	524	12,500	11,766
板倉区	1,084	24,894	857	18,014	952	20,000	17,871
三和区	166	3,033	199	2,790	133	3,200	2,490
名立区	1,552	34,486	1,551	16,800	1,440	16,800	14,704
合 計	8,121	133,318	8,257	102,836	7,457	110,000	95,894

※安塚区、牧区、中郷区、清里区は、他の生涯学習施設や総合事務所等に併設のため除外

※頸城区は、5つの分館を集計(頸城地区公民館は「ユートピアくびき」に併設のため除外)

※各区は分館利用件数、利用者数を含む。

・ 施設管理における市の収支状況

区 分		平成 29 年度	平成 30 年度	令和元年度	
				予 算	実 績
①収入	使用料収入	7,816	7,459	7,099	6,454
	その他	6,639	1,933	18,182	16,328
	合計	14,455	9,392	25,281	22,782
②支出	施設維持管理費	134,333	126,517	146,288	139,057
	うち委託料	30,600	27,223	31,788	31,063
	その他	-	-	-	-
	合計	134,333	126,517	146,288	139,057
③公費投入額 (②-①)		119,878	117,125	121,007	116,275
④利用者 1 人当たりの 公費投入額 (単位: 円)		449	488	500	515

決算書 (P358～P359)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	公民館管理運営費		

### 【事業の成果】

新型コロナウイルス感染症対策に伴う活動自粛の影響もあり、全体の利用件数・利用者数は微減しているものの、多くの市民から利用されており、地域の拠点として生涯学習活動及び地域活動の場を提供することができた。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・最も身近な生涯学習施設として、幅広い世代の地域住民が快適に利用できるように、引き続き適切な管理運営を行っていく。
- ・各地区公民館並びに分館については、配置数や施設の利活用の状況、規模や建物の老朽化の度合いが様々であることを踏まえながら、施設管理運営の改善に努める必要がある。
- ・施設管理運営の改善に当たっては、社会教育の推進事業や活動のほか、各地域での実際の使われ方（機能）に着目し、地域に根ざした活動の場所がなくならないよう配慮した上で、利用する地域住民と施設の今後の在り方に係る協議を丁寧に重ねていく必要がある。
- ・建物の老朽化や設備の経年劣化が進んでいることから、緊急度や必要性を考慮しながら計画的な修繕や更新を行う必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、利用者が安全に安心して利用できるように、施設の適切な管理運営を図る必要がある。

### 【執行残額について】

○入札差金	2,691	
・修繕料	10	
・委託料	377	
・使用料及び賃借料	37	
・工事請負費	2,267	(屋上防水工事)
○その他	4,540	
・報酬、共済費及び報償費ほか	1,964	
・燃料費及び光熱水費	1,612	
・施設管理委託料、使用料及び賃借料ほか	964	

(単位：千円)

決算書 (P360～P361)	10 款 5 項 2 目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田公園オーレンプラザ管理運営費		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
40,555	36,467				12,784 (使用料、助産収入、 諸収入)	23,683
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	4,088			2,270	1,818	

## 【目的】

多くの市民が集い、語り、活動し、交流する場として、充実した活動を行うことができるよう、施設の適切な管理運営を行う。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

## ○実施内容、これまでの経過等

市民交流や子育て支援の拠点施設として、また、市民団体の活動発表の場として、維持管理を行い、年間 194,188 人が利用した。

## ○施設の管理実績

## ・利用者数

(単位：人)

	ホール	ホール以外の貸館施設	こどもセンター	見学・視察	合計
平成30年度	31,531	57,428	93,926	24,521	207,406
令和元年度	30,691	59,683	78,120	25,694	194,188

## ・施設管理における市の収支状況

区分		平成30年度		令和元年度	
		予算	実績	予算	実績
①収入	使用料収入	9,825	11,411	11,278	11,133
	その他	149	1,722	1,795	1,651
	合計	9,974	13,133	13,073	12,784
②支出	施設維持管理費	43,968	37,676	40,555	36,467
	うち委託料	25,982	22,063	23,900	21,642
	その他	-	-	-	-
	合計	43,968	37,676	40,555	36,467
③公費投入額(②-①)		33,994	24,543	27,482	23,683
④利用者1人当たりの公費投入額(単位：円)		-	118	-	122



決算書 (P360～P361)	10款5項2目 公民館費	所管課等	社会教育課
事業名	市民交流施設高田公園オーレンプラザ管理運営費		

### 【事業の成果】

市民団体との協働によるジョイント形式のコンサートやまちづくりについて考える歴史講演会といった自主事業により賑わいを創出するとともに、施設の維持管理を適切に行い、様々な市民活動の交流・発表の場として定着してきたことから、利用者数は、開館から3年目で50万人を達成した。

### 【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・新型コロナウイルス感染症のため、3月のホール利用が全てキャンセルになったことやこどもセンターのプレイルームが閉鎖されたこと等により、利用者数が平成30年度を下回った。
- ・利用者の安全を確保するため、新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、地域交流や市民交流の拠点としての役割を継続的に果たしていくことが必要である。

### 【執行残額について】

- 入札差金 2,270
  - ・施設管理委託料、印刷製本費ほか
- その他 1,818
  - ・光熱水費、複写機借上料ほか（事業実績による残）



上越市民吹奏楽団と市内合唱団による  
「クリスマスコンサート」



長野県立歴史館館長を講師に招いた  
「歴史講演会」

(単位：千円)

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

予算現額	執行額	執行額の財源内訳				
		国庫支出金	県支出金	市債	その他	一般財源
316	309				3 (雑収入)	306
翌年度繰越額	執行残額	執行残額の内訳				
		事業費節減	事業未実施	入札差金	その他	
-	7				7	

## 【目的】

- ・市民が本とふれあう機会を提供するとともに、活字による読書が困難な方への図書館サービスにより、広く読書活動の普及を図る。
- ・上越市子ども読書活動推進計画（第3次）に基づき、子どもの自主的な読書活動を推進するための取組を行う。
- ・視覚に障害がある方や活字による読書が困難な方を対象とした資料を整備・提供し、広く図書館サービスの利用促進を図る。

## 令和元年度の取組

## 【事業の概要(年度目標、実施内容、これまでの経過、目標達成状況など)】

読書活動推進事業 187

## ○令和元年度目標

- ・読書活動の推進に向け、主に子どもを対象とした各種催し等を実施し、図書館利用者の増加を目指す。
- ・読書活動推進事業への参加者数：9,200人

## ○実施内容、これまでの経過等

## (1) こどもの読書週間及び読書週間事業の実施

- ・春のこどもの読書週間（4/23～5/12）と秋の読書週間（10/27～11/9）に合わせて、司書が推奨する絵本や読み物のブックリストを作成し、図書館利用者や市内の小中学校に配布するとともに、各館でリストに掲載された本の展示も併せて行った。
- ・上越地域医療センター病院と連携し、読書週間講演会として運動と健康に関する講演会を実施したほか、リサイクルブック市やおはなし会、本の朗読会を行った。

## (2) おはなし会等の読書活動推進事業の実施

- ・読み聞かせボランティア団体の協力により、主に乳幼児から小学生までを対象とした絵本の読み聞かせ会を全館で定期的の実施した。（ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3月中は開催を中止した。）
- ・「図書館こども祭」（5月・6月／全館）や「図書館サイエンススクエア」（12月／高田 上越科学館との連携事業）「ようこそ！ドイツのクリスマス」（12月／直江津 オリンピック・パラリンピック推進室との連携事業）など、読書活動の推進に関わる催し物を実施した。

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

### (3) 学校との連携

- ・学校活動の補助として活用できる資料の貸出しや、学校へ出向いてのおはなし会、学校司書・図書館教育担当者を対象とする研修会に図書館から講師として司書を派遣するなど、児童・生徒の読書活動への支援を行った。
- ・図書館が調整を図りながら夏休み期間中に放課後児童クラブで読み聞かせボランティアによるおはなし会を実施することができた。
- ・中学生の職場体験の受入れや小・中学校、特別支援学校の校外学習の受入れ等にも対応した。
- ・読書週間に合わせて、絵本やおはなしにちなんだ料理を小・中学校の給食献立に取り入れてもらう「おはなしランチ」を実施し、児童・生徒に本に対する興味・関心を持ってもらえるよう取組を行った。

### (4) 図書館利用者登録の推進

- ・平成 30 年度からの継続となるガス水道局との連携企画として、令和元年度は『カラスのパンやさん』のパンを作ろう！と題し、図書館では作ってみたいパンの絵の募集や読み聞かせにも併せて取り組み、一連の事業として実施することで図書館利用の促進を図るなど、年間を通し図書館への来館者増に努めた。
- ・小学校の新 1 年生に対して、入学準備時に合わせて図書利用案内を配布し、利用と登録の促進を図った。

### ○目標達成状況

定例的なおはなし会や図書館主催事業を行うとともに、教育総務課や学校教育課、ガス水道局等、他部署との連携事業を実施することで、読書活動の推進を図ることができた。

しかし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、3 月中のおはなし会を全て中止したことなどから、読書活動推進事業の参加者数は 8,431 人とどまり、目標は達成できなかった。

### 障害者サービス事業 122

#### ○令和元年度目標

視覚に障害がある方などに向けた資料の年間貸出タイトル数：560 タイトル

#### ○実施内容、これまでの経過等

ボランティア団体との協働により、デージー図書（※）を新たに 50 タイトル作成。所蔵資料の充実を図ることができた。

※デージー図書…小説などの朗読を収録した CD-ROM 形式の資料。デージーという国際規格によって作製されており、専用機器で再生することで、聞きたい箇所の頭出しや再生速度の調整などを音声案内で操作できる。

#### ○目標達成状況

録音図書等の資料の年間貸出タイトル数は 707 タイトルで、目標を達成できた。

決算書 (P 360～P 361)	10 款 5 項 3 目 図書館費	所管課等	社会教育課
事業名	読書普及・自主活動事業		

【事業の成果】

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により活動を休止する期間もあったが、ボランティア団体との協働により、年間を通して定期的な催し物を開催することができた。
- ・こどもセンターや催し物会場での読み聞かせ、学校との連携事業などがきっかけとなり、図書に興味を持ったり、親子で読書をする時間を持ったりするようになったなど、読書活動の推進に貢献することができた。
- ・録音図書の新規作成をボランティア団体と協働で積極的に進め、録音図書等の資料の貸出タイトル数が増加した。



【今後の課題、反省点、目標が達成できなかった要因など】

- ・上越市子ども読書活動推進計画（第3次）に基づき、教育委員会内や健康子育て部など関係部署とも連携して計画を実行し、子どもが本に親しむ機会を増やしていくなど、その達成状況を確認するとともに、結果を図書館協議会に諮り、意見・提案を計画の推進に反映する。
- ・新しい生活様式を取り入れた新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、参加者が安全に安心して参加できるように、事業を行う必要がある。

【執行残額について】

- その他 7
- ・報償金、消耗品費ほか

<おはなしランチ（メニューの例示）>

<p style="text-align: center;">きゅうしょく た ～給食で食べたい！おはなしにちなんだメニュー～</p>	
<p>【吉川中学校】</p> 	<p>【合併前上越市中学校】</p> 
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごはん</li> <li>・ぎゅうにゅう</li> <li>★さんまのしおやき</li> <li>★キャベまるサラダ</li> <li>★やさしいのびれつでんのみそしる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごはん</li> <li>・ぎゅうにゅう</li> <li>★セルフのビビンバ(肉炒め・ナムル)</li> <li>・フレンチポテト</li> <li>・チゲ風スープ</li> </ul>
<p>★印の献立は、こちらの本から考案しました 『めぐろのさんま』落語絵本6（川端誠/作 クレヨンハウス 2001） 『なすの与太郎』『怪僧タマネギ坊』『風雲しょうが丸』『伊賀のキャベ丸』 野菜忍列伝シリーズ 3・4・5・6（川端誠/作 BL出版）</p>	<p>★印の献立は、こちらの本から考案しました 『男子☆弁当部 オレらの友情てんこもり弁当』 （イノウエミホコ/作 東野さとる/絵 ポプラ社 2010）</p>